


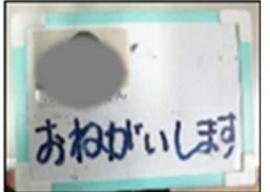

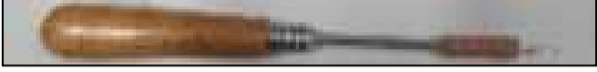
R5 自分から学ぶための環境づくりの工夫マップ【小学部 生活単元学習・前期】

授業実践における目指す姿と 目指す 有効であった工夫 【主体性の段階】に応じて設定する学習場面		目指す自分から学ぶ姿	有効であった環境づくりの工夫	
			人的支援	物理的支援
【主体的】	自己決定 状況に合わせて、自分は今、何をするのかを考えて取り組む場面			
【自主的】	自己判断(選択) 周囲や支援者からの要請に応え、自分は何をするかを判断(選択)して、取り組む場面			
【自立的】 (ア) 自分の取り組む活動に一人で最後まで取り組む姿 (イ) 自分の取り組む活動の手順や進め方に沿って取り組む姿 (ウ) 自ら日課・スケジュール(活動の順番)配置(活動する場所)を確認して活動に向かう姿 (エ) 自ら指示書(イラストカードなど)を確認し、活動に向かう姿	有用感・効力感 「役立った」 「うまくいった」 を感じられる場面	お客さんからチケットを受け取る、「どうぞ。」と言いながらお客さんにメニュー表を手渡す、厨房チームに指差して作る物を伝え、商品を渡すといった一連の役割を行う姿 ダンスパフォーマンスをきっかけにお客さんと関わる姿 友達に自分から写真カードを両手で渡す姿	・本人の分かる方法(グリーン)で称賛する。 ・できたことを称賛する。 ・写真カードを渡す児童、受け取る児童それぞれに教員がつく(TTの連携)。	・メッセージカードをかごやうちわに表示する。 ・本人の好きな音楽でのダンス活動を取り入れる。 ・パーティションで視界を区切り、活動に集中できるようにする。 ・活動内容をイラストカードで提示する。
【自発的】 (ア) 活動や遊びに使う物や道具は自分から準備をする姿 (イ) 活動や遊びが呈示されるとやりたがる姿	達成感・興味関心 「分かった」「できた」 驚き・やってみたい を感じられる場面	お客さんから名前を呼ばれたことを気付き、ゲームで使用するボールを1回でもお客さんに渡す姿。	・お客さんに名前を呼んでもらい、本人の分かる方法(ハイタッチ)で称賛する。	・本人とお客さんの位置を対面にし、ボールの位置を固定するなど本人にとって分かりやすい配置をする ・使用するかごを本人にとって使い慣れたものにする。

R5 自分から学ぶための環境づくりの工夫マップ【小学部 生活単元学習・後期】

授業実践における目指す姿と 目指す 有効であった工夫 【主体性の段階】に応じて設定する学習場面		目指す自分から学ぶ姿	有効であった環境づくりの工夫	
			人的支援	物理的支援
【主体的】	自己決定 状況に合わせて、自分は今、何をするのかを考えて取り組む場面			
【自主的】	自己判断(選択) 周囲や支援者からの要請に応え、自分は何をするかを判断(選択)して、取り組む場面			
【自立的】 (ア) 自分の取り組む活動に一人で最後まで取り組む姿 (イ) 自分の取り組む活動の手順や進め方に沿って取り組む姿 (ウ) 自ら日課・スケジュール(活動の順番)配置(活動する場所)を確認して活動に向かう姿 (エ) 自ら指示書(イラストカードなど)を確認し、活動に向かう姿	有用感・効力感 「役立った」 「うまくいった」 を感じられる場面	自分から手順表を見てそのとおりに作り、スイートポテトを一人で完成させる姿【抽出B】 手順表を手掛かりに教師と確認しながら、自分で準備や調理に取り組む姿【抽出C】 教師の働きかけを受け、調味料をビニール袋の入れ、手で袋の上から材料をもんで混ぜることができる姿【抽出A】	・手順を確認する際に2択にして選ばせ、自信を持てるようにする。 ・楽しい雰囲気づくりのために焼き芋マンを登場させる。 ・楽しい雰囲気づくりのためになじみのある「幸せなら手をたたこう」の歌の替え歌を歌って調理の活動をする。 ・調理方法に見通しが持てるように、4回同じ工程の調理方法を繰り返す。 ・活動への理解を深めるために、教師も一緒に材料を調理し、見本を目の前で見せる。	・見通しを持って自分で作業を進められるように、手順表を黒板に提示し、いつでも確認できるようにする。 ・一人でできるように、写真による工程表に順番をつける。 ・児童の能力に応じて、扱える道具(マッシャー)を用意して使用する。 ・確認したり、見通しを持つたりするためにイラストを使った手順表を提示する。 ・一つ活動が終わる毎に手順表に花丸を付けた。 ・物を置く場所が分かりやすいようにお盆にイラストを貼る。 ・自分で着替えられるようにエプロン等の入ったかごを児童の隣に配置する。 ・トッピングを選ぶ際に、チョコやクッキーのカードを提示する。 ・活動への見通しを持つことができるように調理の手順を示したカードを用意する。 ・道具の取扱いが難しい児童でも自分で行えるようにするためにジップロックを用いて袋の外から混ぜる活動を行う。 ・見通しを持たせるために、同じ調理を3時間繰り返し行えるように単元計画を行う。
【自発的】 (ア) 活動や遊びに使う物や道具は自分から準備をする姿 (イ) 活動や遊びが呈示されるとやりたがる姿	達成感・興味関心 「分かった」「できた」 驚き・やってみたい を感じられる場面	活動に興味を持ち、落ち着いて教師や友達と一緒に準備や調理に取り組む姿【抽出D】	・楽しい雰囲気づくりのために焼き芋マンを登場させる。 ・児童が穏やかに活動できるように教師が分かりやすく(「もみもみ」「ぎゅうー」等)、優しい言葉掛けをする。 ・お互いに友達の活動の様子が見えるようにグループの組み方や座席の配置を工夫する。 ・教師が楽しそうに活動する。	・自分でできる場面を増やせるように、物を置く位置や片付ける場所などをイラストや写真で提示する。 ・自分で身に付けるためにエプロンの首元の色に違いをつける。 ・児童がやりやすいように三角巾をゴムにする。

R5 自分から学ぶための環境づくりの工夫マップ【中学部 作業学習】

目指す 【主体性の段階】に応じて設定する学習場面	授業実践における目指す姿と有効であった工夫	目指す自分から学ぶ姿	有効であった環境づくりの工夫	
			人的支援	物理的支援
【主体的】 自己決定 状況に合わせて、自分は今、何をするかを考えて取り組む場面				
【自主的】 自己判断(選択) 周囲や支援者からの要請に応え、自分は何をするかを判断(選択)して、取り組む場面		作業制作の場面で、作業手順表を見ながら自分で考えて取り組む姿(前期キャンドル班) 工程表を見ながら、友達と協力して取り組む。友達に自分から声掛けをする。(後期木エタイル班)	・使用するボンドの量などをあえて少なくするなど、生徒が依頼をする場面を設定する。	・工程表を提示する。 ・作業工程毎に籠を分け、分かりやすくする。 ・タブレットを使用し、やり取りを生徒自身の判断で行えるようにする。 
【自立的】 (ア) 自分の取り組む活動に一人で最後まで取り組む姿 (イ) 自分の取り組む活動の手順や進め方に沿って取り組む姿 (ウ) 自ら日課・スケジュール(活動の順番)配置(活動する場所)を確認して活動に向かう姿 (エ) 自ら指示書(イラストカードなど)を確認し、活動に向かう姿	有用感・効力感 「役立った」「うまくいった」を感じられる場面	作業種の選択の場面で、必要なものを準備し、取り組み、報告する姿(前期キャンドル班) 作業の流れを理解し、一人で作業に取り組むことができるようにする。(陶芸班) (後期木エタイル班) 作業の流れ理解し、一人で作業に取り組んだり報告をしたりすることができる。(クラフト班)	・落ち着いて自分から活動するために、作業の流れを固定し、繰り返し行う。 ・次の活動への切り替えができていない際には、「次は何をしますか。」などの言葉掛けをすることで、活動の切り替えを促す。	・報告などの際に、自身を持って行えるようにカードを準備する。  ・一見して分かりやすくするために教室中央のテーブルの物の配置を構造化する。  ・一人で取り組めるように専用の道具(ろうそくの芯穴を開ける道具)を準備する。  ・作業終了時の報告などを意識できるように、あいさつや報告カードを準備する。 ・自分で作業の準備ができるように顔写真付きの籠に、その日の作業で使用する道具や材料を揃えておく。
【自発的】 (ア) 活動や遊びに使う物や道具は自分から準備をする姿 (イ) 活動や遊びが呈示されるとやりたがる姿	達成感・興味関心 「分かった」「できた」驚き・やってみたく感じられる場面	作業制作の場面で、手本を見ながら教師と一緒に作業に取り組む姿(前期キャンドル班) 教員の支援を受けながら、友達と協力して自分の作業に取り組む。(後期木エタイル班)	・自分からの取り組みを促すために、ペアでの活動を設定する。	・自分の作業に集中できるように、カットテーブルやパーテーションの使用する。

R5 自分から学ぶための環境づくりの工夫マップ【高等部 朝の会】

授業実践における目指す姿と有効であった工夫		有効であった環境づくりの工夫	
目指す	目指す自分から学ぶ姿	人的支援	物理的支援
【主体的】 【主体性の段階】 に応じて設定する 学習場面 自己決定 状況に合わせて、自分は今、何をするのかを考えて取り組む場面	周囲に目を向け、自分の考えを持ち、発信することで自信を持つ姿（前期：高1-1）	・都度、教師が称賛したり、他の生徒の反応を促したりする。 →受け手の姿勢を整え達成感につなげる支援 ・初めは教師と一緒に伝える内容を確認する。 →適切な取り組み方を示す支援	・初めはみんなに伝える情報をまとめるスピーチメモやワードボックス(文例)を活用する。 →思考を整理し、安心して取り組めるようにする支援 
	学級の友達に伝わりやすいように発表し、相手の反応を確かめる姿（後期：高2-1）	・〇×カードを用いて、発表の音が聞こえたかどうかを視覚的に伝える。 →受け手の姿勢を整え達成感につなげる支援 	・予定カードを全体に見せながら前を向いて発表するようにする。 →学習態勢を整える支援 ・話す内容をシートにまとめる。 →思考を整理し、安心して取り組めるようにする支援
	時間を守り、周囲の様子を意識して行動する姿（後期：高2-2）	・生徒が発表を始めたとき、周りに声が聞こえていることをフィードバックする。 →受け手の姿勢を整え達成感につなげる支援	・デジタル時計を見える位置に提示する。 →活動の区切りを分かりやすくする支援
	日直の進行に応じて自分で行動を始め、今日の予定を周りに聞こえる声で発表する。（事例シート：高3-1）	・初めは教師が発表を聞き取りまとめる。徐々に支援を減らしていく。 →適切な取り組み方を示す支援 ・要所で教師が称賛したり、他の生徒の反応を促したりする。 →受け手の姿勢を整え達成感につなげる支援	・周りに声が聞こえるようマイクを使用する。 →コミュニケーションを補助する支援
【自主的】 自己判断(選択) 周囲や支援者からの要請に応え、自分は何をするかを判断(選択)して、取り組む場面	自ら考えて適切な判断や決断に至る姿（前期：高1-1）	・初めは教師が発表を聞き取りまとめる。徐々に支援を減らしていく。 →適切な取り組み方を示す支援 ・要所で教師が称賛したり、他の生徒の反応を促したりする。 →受け手の姿勢を整え達成感につなげる支援	・服装カードを用意して、天候に応じた服装についての考えを視覚化する。 →思考を整理し、安心して取り組めるようにする支援
	日直として学級全体の様子に目を向け、相手とやりとりしながら会を進行する姿（後期：高2-1）		・進行表に沿って、他の生徒とのやり取りなど、一定の流れで活動する。 →ルーティン化の支援
	自ら考えて適切な判断や行動に至る姿（後期：高2-2）		・タブレットで事前に必要な情報を調べる。 →思考を整理し、安心して取り組めるようにする支援
【自立的】 (ア) 自分の取り組む活動に一人で最後まで取り組む姿 (イ) 自分の取り組む活動の手順や進め方に沿って取り組む姿 (ウ) 自ら日課・スケジュール(活動の順番)配置(活動する所)を確認して活動に向かう姿 (エ) 自ら指示書(イラストカードなど)を確認し、活動に向かう姿	有用感・効力感 「役立った」「うまくいった」を感じられる場面	仲間の働きかけで自分の役割に取り組む姿（前期：高1-1）	・発表するものの読み方を事前に確認する。 →適切な取り組み方を示す支援 ・要所で言葉掛けやハイタッチをし、称賛する。 →受け手の反応を整え、達成感につなげる支援
	教師が支援しなくても、友達とやり取りをしながら役割を果たし、やり遂げる姿（事例シート：高1-2）	・本人が指さした部分を他の生徒が読むようにする。 →友達との関わりを促す支援	・道具の場所や発表の動線をテープやかごを用いて視覚的に示す。 →することを分かりやすく示す支援 ・毎日同じ活動を同じように取り組めるように、朝の会の流れを一定化する。 →ルーティン化の支援
【自発的】 (ア) 活動や遊びに使う物や道具は自分から準備をする姿 (イ) 活動や遊びが呈示されるとやりたがる姿	達成感・興味関心 「分かった」「できた」驚き・やってみたく感じられる場面		・カードを準備し手伝ってほしい友達に提示することで、友達と一緒に役割に取り組めるようにする。 →思考を整理し、安心して取り組めるようにする支援 →友達との関わりを促す支援

R5 自分から学ぶための環境づくりの工夫マップ【A課程 朝の会】

目指す 【主体性の段階】に応じて設定する学習場面	授業実践における目指す姿と有効であった工夫	目指す自分から学ぶ姿	有効であった環境づくりの工夫	
			人的支援	物理的支援
【主体的】	自己決定 状況に合わせて、自分は今、何をするのかを考えて取り組む場面			
【自主的】	自己判断(選択) 周囲や支援者からの要請に応え、自分は何をするかを判断(選択)して、取り組む場面			
【自立的】 (ア) 自分の取り組む活動に一人で最後まで取り組む姿 (イ) 自分の取り組む活動の手順や進め方に沿って取り組む姿 (ウ) 自ら日課・スケジュール(活動の順番)配置(活動する場所)を確認して活動に向かう姿 (エ) 自ら指示書(イラストカードなど)を確認し、活動に向かう姿	有用感・効力感 「役立った」「うまくいった」を感じられる場面	教師の少ない支援で、T2に聞こえる声の大きさを司会をする姿 友達の前に出て、T1と一緒に献立のカードを選んで貼る姿	<ul style="list-style-type: none"> 今日の司会で目標とする項目をプログラムから一つ選び、司会カードに印を付けるよう言葉掛けする。 自分で進行できるよう見守る。 難しい場合は指差しや最初の一文を教えるなど、最小限の支援をする。 恥ずかしがる様子が見られ、進まない場合はAの車椅子を押し、生徒の近くに連れて行く。 最初に決めた目標を確認し、達成できたか聞く。 言葉が出ない場合は、周囲にも聞き、皆で称賛する。 座位保持椅子や生徒用椅子の向きやT1との距離を工夫して、前を向きやすいようにする。 あいさつや呼名の際にT1の手の位置を毎回変えることで、タッチでのあいさつが見ないとできないようにし、見る意識を持たせる。 見て欲しい場所に生徒の手を持って行くことで、注視する意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 司会カードを用意し、カードをめくりながら会を進められるようにする。 目標とする項目には印を付け、意識して取り組めるようにする。 人の出入りがなるべくないようにする。 カーテンを閉めたり必要に応じてパーテーションを置いたりして、朝の会に集中できる環境を作る。 活動の様子や給食のメニューの写真カードを用意し、視覚的な支援をする。 月、日、曜日を日めくりカレンダーと同じ色のカードで準備し、どこに貼るのかを視覚的に分かりやすく示す。 主食は2種類の中から選ぶ形式にし、発表するだけではなく選択する練習を繰り返すことで言葉の意味への理解を促す。
【自発的】 (ア) 活動や遊びに使う物や道具は自分から準備をする姿 (イ) 活動や遊びが呈示されるとやりたがる姿	達成感・興味関心 「分かった」「できた」驚き・やってみたくて感じられる場面	友達や教師の言葉掛けに応じて、係の仕事に自分から手を伸ばして取り組む姿 自分から友達にタッチしようとしたり、働き掛けに応えたり、ギターの伴奏をしたりする姿 「今日の音楽」を2択から選ぶ。選ぶ際には、覚醒状態が高いこと、視線等で自分で選ぶことを目指す姿 自分の仕事(日付と天気)や健康観察時に、教師や友達の働きかけに対して、目の動きや表情、身体の微妙な動きなどで反応する姿 T1から提示された学習予定カードをめくり、落ち着いて朝の会に参加し、T1からの呼名に自分なりの方法で返事をする姿(手をタッチ、教師の言葉掛けに声を上げる) 提示した絵カードに視線を向けたり、T1の呼名に対して、得意な方法で返事をしたりする姿(手指の動き、足首の動き、瞬きなど)	<ul style="list-style-type: none"> 日めくりカレンダーは補助具を使わず、自分でつかんでめくるまで待つ。難しい場合には紙がつかみやすくなるよう、カレンダーの位置などを工夫する。 プログラムでは、生徒が補助具をつかんで自分で腕を動かすまで待つ。 予定のカードを見せ、目標を選べるよう支援する。 日直の進行が滞ったときには応援するよう、他の児童に促す。 日直や教師の働き掛けに応えられるよう、表情や発声を見取り、支援する。 進行カードの置く位置や友達とタッチする場面での目線など適切になるようにする。 生徒の反応を待つようにするが、会が間延びしないよう、一定時間で次の活動に進むようにする。 繰り返し行っていくことで、曲とカードの一致を図っていき、本来のねらいの「自分で聴きたい曲を選ぶ=自発的に朝の会に参加する」をしっかりねらえるようにする。 曲(カード)は一定期間で変えていく。 健康観察時には、友達同士で顔を見合わせたり、タッチしたりしやすいように、教師が車いすを押し、移動する。 生徒の実態に合ったコミュニケーションの方法で働きかける。 互いに称賛し合い、達成感を感じられるようにする。 触覚による気付きにも期待し、直接友達や教師と触れ合う場面をつくる。 教師が気持ちを代弁し、共感することで反応を促す。 教師は少ない言葉掛けや生徒の動きを待つことで、自発的な行動を促すようにする。 活動の終わりに教師が言葉掛けをし、次の活動を促すようにする。 正面で話す教師に意識を向けやすいように、本人の顔の向きに応じて座位保持いすや児童用椅子の向きを調整する。 返事をする際に使う手指や足首を、登校後にマッサージしてほぐしておく。 手指の動き足首の動き、瞬きの中でどの方法で返事をするかを朝の会前に本人に確かめておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会の進行に沿って、終了したプログラムのカードを補助具を使ってめくり、箱に入れられるようにする。 児童が好むギザギザのおもちゃを用意する。 天気カードやホワイトボードに貼り付けた給食のメニューなどを活用する。 本人が自ら手を伸ばしたり、触ったりできる興味や関心のあるもの(ギザギザしたものやギターなど)を用意する。 TVモニター(PowerPoint)を使用すること(視覚支援)で、取り組む活動内容を分かりやすくする。 本人の選択決定の意思表示は、目の動きによることが多いことから、視覚的に選べるようカードなどを用意する。 カードは曲とつながりやすいような物にする。 カードを選ぶ際には、一曲ずつカードを提示しながら曲の一部を流し、本人の選択の助けとなるようにする。 友達の存在を意識できるように、アーチ状に生徒を配置する。 ミニボードで日付と天気を提示し、皆で確認しやすいようにする。 生徒が自分の役割を果たせるように、必要な補助具を準備する。 自分がこれからやろうとする係の仕事を意識できるように、日付や天気のカードを見せてから進める。 日めくりカレンダーを教師と一緒に引っ張りやすいように、補助具を準備する。 プログラムカードは終了するごとにカードをめくって箱に入れ、朝の会が進行していくことが視覚的にわかるようにする。 プログラムカードを用意し、ホワイトボードに貼り付けたカードをめくりながら朝の会を進められるようにする。 どっちもクリップを使用し、ホワイトボードを固定し、プログラムカードを本人のめくりやすい位置に配置する。 全員が見えやすいように、ミニボードを活用して日付や曜日、天気を示す。 手指の動きで返事をする場合は本人持参のおにぎりスイッチ(おにぎりケース voca)を活用する。 好きな活動や給食のメニューの写真や絵をiPadで用意し、よく見ようとする意欲を高める。